

令和3年度 熊本国府高等学校 第1回 学校関係者評価委員会
評価委員の皆さんのご意見

日時； 令和3年7月15日（木）15：00～16：00

場所； 本校 多目的教室

会次第；

1. 開会
2. 出席者紹介
3. 委嘱状交付
4. 学校長挨拶
5. 学校運営についての説明（学校紹介ビデオ上映を含む）
6. 意見交換
7. 閉会

出席者；	熊本市立出水小学校 校長	佐土原智彰	先生
	熊本市立出水中学校 校長	田中 豊造	先生（公務のため欠席）
	学校法人評議員	石川 博敏	様
	（同窓会）玉泉会会長	上田 裕子	様
	（PTA）育友会会長	佐藤 久一	様
	出水校区自治協議会会長	豊田まゆみ	様
	出水校区防犯協会会長	松岡 三雄	様
	出水商栄会会長	坂本 正信	様

校長（福田）、副校長（谷口）、教頭（土屋）、事務長（岡田）、
総務部主任（平井）、情報部主任（草原）

・熊本市立出水小学校 校長 佐土原智彰 先生

- ・進学実績など素晴らしい。
- ・国府の生徒はよくあいさつしてくれる。
- ・学校は学力と社会性の2面を育成する所。
- ・学力の育成では、小学校は全教室に電子黒板、タブレットも500台近く完備している。このシステムは文字理解が遅い児童にアニメーションで問題を理解させることができる。これからは文字でない世界をいかに作り出して教えられるかだ。
- ・社会性の面では、教えないことで教えることが大事。教師は自分がしゃべること教えた気になっている。いまからは子どもたちが自分で気づいて、それをしゃべる子を育てることが重要。人がしゃべったことは覚えてないが、自分がしゃべったことは覚えている。大人も同じ。

・ 学校法人評議員 石川 博敏 様

- ・ コロナの中での学校運営ご苦労様。
- ・ 学校が社会にアピールするもの。進路、部活動、エキスパート特待など生徒の姿を社会に見せることが生徒募集の要になる。
- ・ 今回の指導要録の改訂のポイントは、授業のやり方を変えるということ。ICTのハード面の準備が出来つつある中、それを活用して生徒が自ら理解する力をどう作り出すかが重要。生徒が自らやる力の火付け役が教師である。教え込む教育からの脱却が必要。ハードを有効な形で活かしていく。

・ (同窓会)玉泉会会長 上田 裕子 様

- ・ 学校の特色を様々な面で打ち出していこうとしている。国府1期生がそろそろ40代になる。同窓会を引っ張って学校を応援してほしい。中学生の市場が縮小しても学校を残す方法が大切になる。

・ (PTA)育友会会長 佐藤 久一 様

- ・ 以前の国府と違ってよくなった。近所の人からもそう聞く。ここからどうするかが課題。少子化の中での生徒確保。
- ・ リモート授業のスキルに先生方の間に差を感じる。また休校になった時、次の日にはリモート授業ができる体制づくりを日頃からやっておく必要がある。
- ・ 子どもたちは自ら情報を取りに行く。SNSを利用して子どもたちが情報を取りやすい状況を作る必要がある。たとえば、〇〇年の体育大会赤団の演武を見たいと思えば、クリックするだけで動画が見れる。進路を決めた先輩の話が、ボタン一つで動画が見れる。など。

・ 出水校区自治協議会会長 豊田まゆみ 様

- ・ 地域の人たちが、国府の吹奏楽部の演奏や体育大会の観覧を楽しみにしている。コロナが収まったらまたお願いしたい。
- ・ 国府のチラシをA3に拡大して町内の掲示板に貼った。光が見えてきている。

・ 出水校区防犯協会会長 松岡 三雄 様

- ・ 昨年度は信号無視や自転車の二人乗りなど交通違反をする高校生が多かった。今年はずいぶんよろしい。
- ・ 高校生のあいさつは声が大きくてよい。帰りは小中学生が元気。大人は絶対挨拶しない人もいる。

・ 出水商栄会会長

坂本 正信 様

- ・ 部活動はよい。15時過ぎに店の前を野球や水球のバスが通る。生徒のみならず顧問監督の先生方もよくやっている。高校時代の部活動はその後の人生に魂を入れてくれる。どんなに窮地に陥っても前向きになる気持ちを育ててくれたのは部活動だと思う。
- ・ 出水商栄会と国府高校でコラボして何かやりたい。